

BIツールを活用した沖縄県院内がん登録集計データのWeb公開による情報発信の強化

P4-2

伊佐 奈々¹⁾、山本 俊成²⁾、平田 哲生²⁾、福岡 しのぶ¹⁾、増田 昌人¹⁾

1) 琉球大学病院 がんセンター
2) 琉球大学病院 診療情報管理センター

背景

1. 沖縄県では、院内がん登録全国集計への参加病院のカバー率は90.2%で全国一である。また、院内がん登録のメリットである「病院ごとの特徴」が明らかになることを活かし、院内がん登録の活用を進めている。
2. 琉球大学病院では、沖縄県内の医療機関から院内がん登録データを収集し、集計・分析を行い、「沖縄県院内がん登録集計報告書」として冊子体の発行及びPDFでのWeb公開を行っている。
3. 2020年度よりBIツール(TIBCO Spotfire®)を導入し、集計・分析作業の効率化を図ることができた。
4. しかし、報告書の発行部数(400部/年)が限られていること、またWebではページ数が多く、必要な情報にたどり着きにくく、必要とする患者に情報が届きにくい現状があった。

目的

患者、医療従事者、行政担当者など、様々な立場の利用者が、必要とするがんの情報を簡単に閲覧できるWebサイトの構築と公開を行うことを目的とする。

方法

沖縄県の院内がん登録のデータを、BIツールのWeb版を用いて集計・分析・可視化し、沖縄県院内がん登録集計サイトを構築、公開する。

結果

1. BIツールのWeb版を用いて、沖縄県院内がん登録集計サイトを構築、公開した。

<https://web.hosp.u-ryukyuu.ac.jp/medrx/pages/cancer>

2. 沖縄県院内がん登録集計サイトの特徴

① TOPページ

TOPページには、膨大な情報から知りたい情報へのアクセスを容易にするため、利用者のためのガイドが表示される。

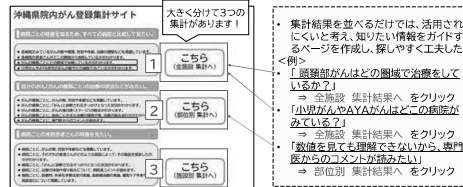


図1 沖縄県院内がん登録集計サイト TOPページ

- ② 患者向け ※主に「部位別集計」を想定

がんの種類別に、あらかじめ準備した条件のボタンをクリックするだけで、登録数、治療実績や専門医コメントが表示される。

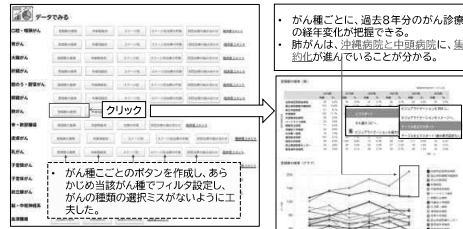


図2 「部位別集計」のTOPページ

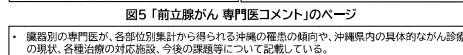
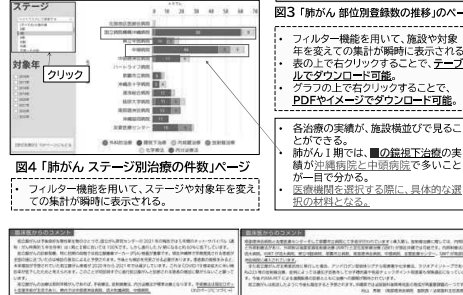


図5 「前立腺がん 専門医コメント」のページ

- ③ 医療従事者向け ※主に「施設別集計」を想定

医療機関別に、条件のボタンをクリックすることで、がんの登録数、年齢、性別、来院経路などの来院患者の特徴、各施設概要、各院長コメントが表示される。



図6 「施設別集計」のTOPページ

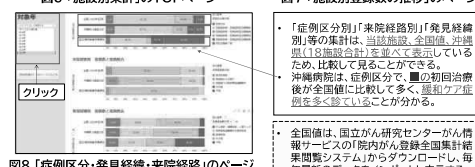


図8 「症例区分・発見経緯・来院経路」のページ

- ④ 行政担当者向け ※主に「全施設集計」を想定

二次保健医療圏別、小児・AYA世代別集計、がん種別「がん診療」を行っている医療機関カバー率などが表示される。

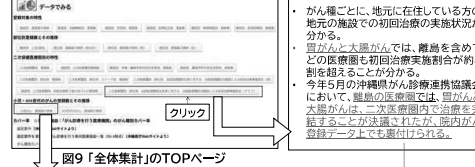


図9 「全体集計」のTOPページ

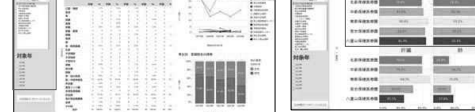


図11 「小児がん登録数の推移」のページ

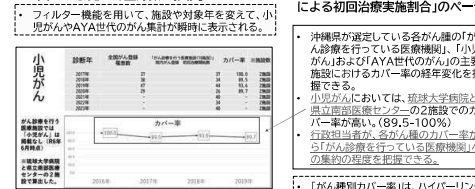


図12 「がん種別カバー率」のページ

3. 沖縄県院内がん登録集計サイトの公開後の意見

1. (患者の立場)データの閲覧に慣れている方には見やすく良いが、報告書のような冊子体での閲覧方法と両方ある方が良い。
2. (県保健医療介護部長)がん対策推進計画を推進する上で情報を活用できるとともに、県民への適切な情報提供や医療機関の選択等に貢献できる。
3. (病院長の立場)自分の施設の特徴が分かり、今後のがん種に力を入れるべきか検討ができる。経営方針を立てる際にも役立つ。

結論

1. 患者、医療従事者、行政担当者が見たいがん情報へのアクセスが容易になった。
2. 院内がん登録に精通したがん登録実務者が開発したことで、治療数の病院比較、対応治療の医療圏比較、カバー率を強調するなど、データの強みを活かした開発ができた。また、開発費用がかからない点においても大きな利点がある。
3. 今後も、患者にとっては医療機関選択の情報源として、医療者にとっては自施設のがん診療の実態把握や医療の質改善の基礎資料として、行政担当者にとってはがん対策を行う際に、がん種ごとにアプローチすべき医療機関の基礎資料として、使っていただけるように情報発信を強化していきたい。